

教育課程論		講義	准教授 堤 ひろゆき
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	25200204

1. 授業のねらい・概要

現在の学習指導要領の特徴とそこで目指されている学校教育像を理解したうえで、現代のさまざまな教育問題に対して学校教育が果たすべき役割について、具体的なカリキュラム開発の方法論に基づく考察を行えるようになることを目指す。そのため、教育課程の意義と役割および現代的課題を概観した後、教育課程編成の方法論や学習指導要領の歴史の変遷について解説する。基礎的な知識と概念の修得を進めつつ、実際の事例に基づいて、カリキュラムについての理解を深め、自身の言葉でも表現できるようになる。

2. 授業の進め方

レジュメおよび参考資料を配布し、基本的には講義形式で進めていく。また具体的な教育実践を扱った映像資料や文献などを紹介し、その内容について受講者全員で議論する時間も多く設けたい。

3. 授業計画

1. 教育課程の意義と役割	9. 教育課程編成の方法①：基本方針と編成上の留意点
2. 現代の教育問題と教育課程①：学力とは何か	10. 教育課程編成の方法②：教育課程実施上の課題
3. 現代の教育問題と教育課程②：教師の専門性	11. 教育課程の評価方法
4. 学習指導要領の変遷①：戦後から現在まで	12. 潜在的カリキュラムと学校文化
5. 学習指導要領の変遷②：ゆとりと学力	13. 教育課程編成の現代的課題
6. 2008年学習指導要領の特徴	14. 教育課程編成の実際と事例検討
7. 教育課程編成の基礎理論	15. 講義のまとめ
8. 2017年学習指導要領の特徴	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の講義を受講する前に、前回の内容を復習しておく。さらに、毎日これまでの講義内容と関連するニュースを探し、読んでおく。なお、これらの準備学習には2時間以上を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出前に解答のポイントを説明する。課題後には講評を公開する。

6. 授業における学修の到達目標

教育課程を編成するための方法論や教育評価のあり方、学習指導要領の変遷と現在の学習指導要領の特徴などを十分に理解したうえで、現代のさまざまな教育問題について、教育課程という観点から考察できるようになることが本講義の到達目標である。

7. 成績評価の方法・基準

受講態度・講義中の小レポートなどによる平常点（30%）、期末課題（70%）の成績を総合的に加味して評価する。

8. テキスト・参考文献

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説 総則編』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説 総則編』（いずれも文部科学省のウェブサイトからのダウンロードも可）の最新のもの。参考文献は講義時に配布する。

9. 受講上の留意事項

現実の教育との関連を意識し、常に最新の情報に目配りするとともに、明確な目的意識をもち、教職に就くことを強く希望する学生の受講を望む。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。